

令和7年度第4回かづの未来会議

日 時：令和7年9月17日（水）18時00分～20時00分

場 所：鹿角市役所第1～2会議室

出席委員：7名（欠席：5名）

出席職員：[政策企画課] 課長、室長、主査、主査、主査、主事

1 開会（進行：政策企画課）

皆さま、平日の夜分にも関わらずお集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、「第4回かづの未来会議」を開催いたします。7月の人事異動により、職員に異動ございましたので、自己紹介させていただきます。

なお、本日は5名の委員が所用により欠席となります。

事務局：続いて、会長より一言ご挨拶をお願いいたします。田中会長、よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

皆さま、本日はご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

今回で4回目を迎える会議となりますが、だいぶ委員の皆さんも慣れてきていると思います。計画の方も大分まとまってきているようですが、それを改めて確認していただき、これまでの議論が良い方向につながっていくように今回も進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3 議事

- (1) 第7次鹿角市総合計画基本構想（案）及び後期基本計画の体系（案）について（資料1・2）

説明：政策企画課 室長

（政策企画課） 資料1をお願いします。

後期基本計画の策定にあたりましては、昨年度より基本構想の点検を進めてまいりました。見直しに際しましては、皆さんの「かづの未来会議」のほか、中高生からなる「かづの未来の若者会議」、さらには若者アンケートなどからいただいたご意見を踏まえ、検証を行っています。なお、本日ご説明いたします見直し案は、あくまで現時点でのものです。あさって19日には、この資料により市議会へ説明することとしており、今後いただく様々なご意見を踏まえて、修正を行う場合があることをご承知おきください。

1ページをお願いします。お手元の資料は、左側に現行の記載内容、中央に見直し案、右側に考察欄を配置しています。見直し案では、修正箇所を赤字で示しています。現行の記載内容も同じ箇所を赤字、又は下線で表しています。また、右側の考察欄には、見直しに至った理由や背景を整理しています。

考察欄の記載につきましては、整理の主体を分けて表記しています。黒字は庁内での整理内容、青字は「かつの未来会議」でいただいた意見、緑色は「かつの未来の若者会議」でいただいた提案を反映したものです。これまで皆さんからいただいた意見は、資料3「かつの未来会議意見集」にまとめております。本日は、皆さんの個々の意見が未来会議全体の意見として反映されるよう、要点を整理した上で、資料1の考察欄に差し込んでいます。この後のディスカッションでは、皆さんの意見が適切にまとめられ、この資料1に反映されているかについてもご確認いただきたいと思います。

全体の見直しの方向性ですが、基本構想は、令和2年に議決を経て決定したものであることを重く受け止め、修正は必要最小限にとどめております。その上で、計画期間中に生じた、特に若者の流出の加速化に伴う人口減少、デジタル化や脱炭素といった社会の変化に対応しています。このように、庁内整理での整理のほか、皆さんから意見を踏まえて修正内容を検討しておりますので、ぜひご確認をお願いいたします。

2ページをお願いします。第3章「鹿角市を取り巻く社会情勢」についてです。この章では、統計調査や将来推計の数値を最新のものに更新するとともに、近年の社会情勢の変化への対応や文言の修正を行っております。右側の考察欄には、先ほども申し上げたとおり「かつの未来会議」でいただいた意見を青字で表示しております。

3ページをお願いします。中段の部分では、まず「定住人口については、人口構造の若返りを図るため、若者世代の活力が発揮されるまちづくりが必要」と整理しております。加えて、「関係人口を新たな人口の捉え方として位置づけ、1人に換算できなくとも0.5人や0.2人といった形で評価し、拡大を図っていききたい」という思いも込めております。このように、定住人口の確保とともに、関係人口の拡大を鹿角市の将来を支える重要な視点として位置づけております。

4ページをお願いします。まず、3の「未来技術の進展」についてですが、デジタル化の進展が非常に速いため、記載内容を現状に合わせて見直しております。

次に、4の「国際化の新たな局面の到来」については、6ページにかけて整理しております。5ページでは、外国人労働者が増加している状況を取り上げ、6ページではDMOを中心としたインバウンド対応の必要性に触れております。下段では、安全安心を脅かすリスクの増大について、クマをはじめとした鳥獣被害への対応についても記載を加えております。

6ページをお願いします。6の「経済のグリーン化」については、市が現在取り組んでおります「脱炭素社会の実現」へと表現を改めております。あわせて、ゼロカーボンシティの実現を目指していること、また脱炭素経営の取組が世の中で広がっていること、さらに森林整備を進めていくことを追記しております。

続いて、7の「社会の成熟化に伴う価値観の多様化」についてです。ここでは、従来のSDGsに加えて、「ウェルビーイング」を実感できる社会の実現が、世界的にも、また国においても求められていることを記載しております。

7ページをお願いします。下段の「ひっ迫が懸念される地方財政」については、9ページにかけて整理しております。

8ページに、経営的な視点を持った持続可能な行財政運営が求められていること、また公共施設の適正配置を進める必要があることを記載しております。

9ページをお願いします。こちらのページでは、第4章「まちづくりの将来像」を記載しております。

この章では、若者に選ばれる地域づくりが求められていることを明確に示すとともに、さらにウェルビーイングを実感できるまちづくりを進めていくことを新たに盛り込んでおります。

10 ページをお願いします。2の将来都市像の実現に向けた基本姿勢は、見直し箇所はありません。

11 ページをお願いします。こちらのページでは、第5章「まちづくりの戦略・取組方針」を記載しておりますが、見直し箇所はありません。前期基本計画と同様、将来都市像の実現に向けて、「暮らしを守る5つの基本戦略」を定めております。加えて、本市の独自性を高め、持続可能なまちの確立に向けた行財政基盤の更なる強化など、3つの戦略を「都市経営の視点で攻める3つの経営戦略」と定めております。このように、「守り」と「攻め」の両輪で取り組むことで、鹿角市の自立した持続可能なまちづくりを推進してまいります。

12 ページをお願いします。ここからは、8つのまちづくり戦略に関する部分になります。このまちづくり戦略の下に、具体的な取組を示す後期基本計画を位置付けるため、表現はできるだけ間口を広く、抽象度を持たせております。まず、基本戦略1についてです。地域産業の成長を支援するという従来の方向性は維持しつつ、新たに、若年層、とりわけ女性の「働く環境の充実」に取り組むことを盛り込んでおります。

13 ページをお願いします。基本戦略2では、「けんこう鹿角21計画」の見直しの方向性に合わせた表現へと修正しております。また、「鹿角市子ども計画」の内容に沿った形での表現に見直すとともに、結婚支援に関する内容をこれまで以上に厚く記載しております。

14 ページをお願いします。ゼロカーボンシティの実現に向けて、家庭部門のCO₂削減として住宅対策に取り組むこと、また増加する空き家への対応として、管理不全空き家の発生を抑制するための取組強化を盛り込んでおります。

15 ページ、基本戦略4は変更ありませんが、皆さんからの意見は考察欄にまとめ、今後策定する後期基本計画への視点として整理しています。

16 ページをお願いします。こちらは、基本戦略5に関する部分です。鹿角の未来を担う人材を育成する観点から、高校教育との連携を図りつつ、地域全体で魅力ある学びの場づくりを進めることを記載しております。また、右側の考察欄に緑色で示している内容は、中高生からなる「かづの未来の若者会議」でいただいた提案を反映したものです。具体的には、「学べる選択肢がもっとあれば将来の夢につながる」との意見を受け、大学や専門教育の場を広げたり、地域と関わりながら学べる機会を充実させることが提案されました。

17 ページをお願いします。ここでは、経営戦略1について記載しております。まず、経営戦略名を従来の「まちに人・モノ・外貨を呼び込む」から、「まちに若者と活力を呼びこむ」へと改めております。その上で、取組の方向性を新たに3点整理しております。まず、若者の分野です。新たに「若者が活躍できるまちづくり」に取り組むこととし、若者の居場所づくりや双方向のコミュニケーションの強化、そして高校の魅力化を進めてまいります。

次に、農業の分野です。地域の特性を生かした農畜産物の高度化を進め、ブランド化やスマート農業を通じて、需要に応える魅力と競争力を高めてまいります。

最後に、ゼロカーボンの取組です。「ゼロカーボンシティの実現」を取組方針として柱立てし、脱炭素経営の推進などを通じて、新たな投資や雇用の創出を目指すことを記載しております。

18 ページをお願いします。本市の世界レベルの文化財は4件となり、「世界遺産のまち」として全国、

さらには世界に認められる地域づくりに向け、大きな弾みがついております。今後は、「つくる」段階から「活かす」段階へと発展させることとし、経営戦略名を「世界遺産のまちをつくる」から「世界遺産のまちを活かす」へと改めました。文化財に関しては、「鹿角地域文化財保存活用地域計画」の策定にあわせ、これまでの「保存」から「保存・活用」へとステップアップしております。さらに、世界遺産登録の効果をまちの活力につなげるため、観光振興と地域経済の発展に直結する取組を進めていく必要があります。未来会議からも「行政の独りよがりになり、地域経済に結び付いていない」との指摘があったことを真摯に受け止め、文化財と観光、産業をつなぐ具体的な仕組みづくりを強化してまいります。

19 ページをお願いします。経営戦略3 についてです。ここでは、これまでの方向性を踏まえ、効率的な行財政運営に引き続き取り組みます。あわせて、デジタル技術を積極的に活用し、市民にとって分かりやすく、利用しやすい行政サービスの推進を図ります。さらに、「政策データの可視化」と「発信力の強化」を新たに位置づけることで、行政の透明性と信頼性を高め、市民と行政の距離を縮めながら、共にまちづくりを進めていくことを目指します。

20 ページ以降に変更はありません。

続いて、資料2 をお願いします。こちらは、先ほど資料1 でご説明しました方向性を、後期計画の体系図として整理したものです。ここでは、前期計画からの変更点についてご説明いたします。

まず、基本戦略1 の取組方針2 についてです。新たに「働く環境の充実に取り組みます」といたしました。本市では、特に若年層、とりわけ女性の都市部への流出が大きな課題となっております。その背景には、業種や職種の偏り、登用機会の不足、賃金格差などがあり、若者や女性が働きがいや将来の展望を見出しにくい現状があります。一方で、若年世代は「共働き・共育て」を前提としているほか、経営者層などに存在し得るアンコンシャスバイアスなどが、地域の職場環境との間にギャップが生じて、都市部への転出を後押ししている側面も指摘されています。このため、働きやすい環境づくりと就労支援の拡大、女性や若者のチャレンジを後押しする施策、さらには農林業の担い手の育成と定着支援に取り組んでまいります。なお、前期計画において位置づけていた取組方針3 「市内外から産業の担い手を確保します」につきましては、内容を整理した上で、企業や事業者への支援は取組方針1 に、労働者への支援は取組方針2 に集約が可能であることから、後期計画では廃止することといたしました。

次に、右側の赤い部分「都市経営の視点で攻める3つの経営戦略」です。資料1 でも説明したとおり、守りを意識した青色の基本戦略に対し、攻めを意識した赤色の経営戦略は、本市の限られた資源で、まちの経営力を高めていきます。

まず、経営戦略の1 「まちに若者と活力を呼び込む」です。ここでは、新たに「若者が活躍できるまちをつくります」という取組を掲げております。若者アンケートの結果では、学校や仕事以外で地域との接点が少ないと回答した方が多く、若者が地域に対して閉塞感を抱いていることが明らかになっています。また、「市政に若者の声が反映されていない」との回答は約8割に上った一方で、「意見を伝えたい」と回答したのは2割程度にとどまっております。若者自身が考えや意見を発信することに、ためらいや難しさを感じている実態が浮き彫りとなっております。さらに、鹿角高校は地域にとって重要な教育資源となっています。しかし、少子化や進路希望の多様化の影響により、定員割れが続いており、今後も入学者数の減少が懸念されております。このため、若者の交流・活躍の場の創出、若者との双方向コミュニケーションの強化、地域と共に育む高校の魅力づくりに取り組むこととしています。

次に、取組方針 23「農畜産物の魅力と競争力を高めます」では、地域の特性を活かしたブランド農畜産品や産地作物の生産拡大を進めるとともに、スマート農業の導入により経営革新を加速させます。さらに、需要を的確に捉えた販売力の強化や、環境に配慮した持続可能な農業への転換を推進し、農畜産業を地域経済を力強く牽引する産業へと育成してまいります。

次に、取組方針 26「ゼロカーボンシティの実現に取り組みます」についてです。本取組は、前期計画では左隣の取組方針 25「次世代産業の創出に取り組みます」に含まれるものとして推進してきましたが、重要性の高まりを踏まえ、新たに独立した取組方針として位置づけました。今後は、再生可能エネルギーの導入促進や、市民・次世代への啓発と行動喚起を一層進めるとともに、脱炭素を起点とした地域産業の振興に力を注いでまいります。

次に、経営戦略 2「世界遺産のまちを活かす」についてです。本市では、世界に誇る文化遺産の登録が進み、現在 4 つとなっております。後期計画では、この基盤を最大限に活用することが重要であると考えております。このため、取組方針 27 は「文化財の保存」から「文化財の保存・活用」に発展させ、保存と担い手の育成、文化財を生かした活用の促進、さらに世界文化遺産「大湯環状列石」の魅力向上に取り組みでまいります。また、世界遺産を観光振興に戦略的に活用するため、前期計画では経営戦略 1 に位置付けた「観光振興」を経営戦略 2 へと位置づけ直しました。世界遺産と地域資源を融合させ、訪れる人々の「感動」を最大限に引き出し、持続可能な観光地域の創出を進めてまいります。

なお、前期計画で取り組んでまいりました取組方針 28「ヘリテージツーリズムに取り組みます」は、役割を整理した上で終了といたします。そのうち、歴史文化に親しむ機会の創出や、世界遺産とともに成長する地域人材の育成は「文化財の保存・活用に取り組みます」へ、観光資源としての文化の活用や海外向けデジタル観光情報の発信は「感動が広がる観光地域を創出します」へと引き継ぎ、発展させてまいります。

最後に、経営戦略 3、取組方針 30「デジタルと対話でつながる市政を進めます」についてです。市民サービスの利便性向上や行政効率化に向けたデジタル施策は一部進展しているものの、分野ごとに取組のばらつきが見られる状況です。また、行政は様々な地域課題に関するデータを保有しているものの、市民にとって分かりやすい形で情報を届ける仕組みは十分とはいえません。行政と市民の間で共通の課題認識を形成するためには、なお一定の工夫や取組が必要です。さらに、市政情報の発信は市ホームページや広報紙を中心に行われていますが、特に若年層や働く世代にとっては接触機会や関心が低い状況にあります。このような現状を踏まえ、今後はデジタル技術を活用した行政サービスの推進と、政策データの可視化・発信力の強化に取り組んでまいります。

以上が基本構想の見直しに関わる後期基本計画における施策体系の説明となります。今後は、各方面からいただいたご意見を反映させながら、12 月議会で基本構想の議案を上程することを目指しているほか、この方向性をもとに、9 月末に庁内各部署に提示し、後期基本計画並びに実施計画の策定作業を指示してまいります。説明は以上です。

この後のグループディスカッションでは、この資料 1 をもとに、以下の 2 点について議論をお願いしたいと思います。1 点目は、未来会議の意見が適切に反映されているかの確認です。「この記載では自分の意見が伝わらない」などがあれば、修正や補足をお願いします。2 点目は、今後 5 年で特に重要だと思う意見の選定と議論です。資料 1 に記載されている未来会議の意見の中から、今後 5 年間で特に重要だと思うものを選び、その理由や活かし方について議論を深めていただきたいと思います。今日、皆

さんから出された強い意見は、今後のまちづくりでの「キーワード」として大切に活用していきたいと考えております。議論の際は、自由に意見を出していただき、皆さんの考えが十分に反映されるような雰囲気を進めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) ディスカッション（グループによる意見交換）（資料3）

(会長) 説明が終わりましたので、これよりグループによる意見交換に移ります。

- これまでの意見が資料に適切に反映されているかを確認した上で、今後5年間で重点的に取り組むべき課題や方向性について意見交換を行った。
- Aグループでは、見直し案は概ね意見を反映しているとの認識のもと、文言修正の理由確認や本文への追記・補強に関する意見が出された。あわせて、生活と文化の観点から、ウェルビーイング、世代交流、暮らしやすさ、文化継承、人材・資金不足などが論点として整理された。
- Bグループでは、見直し案自体に大きな修正意見はなかったが、ゼロカーボンの取組は市民の声を取り入れながら進めるべきとの意見が出された。また、「かかわり」をキーワードに、若者の居場所づくり、地域資源の活用、世界遺産・民泊、外部人材や移住・定住との接点づくり等について意見が整理された。
- 全体として、見直し案への反映状況を確認するとともに、生活と文化の持続性、及び「かかわり」を軸とした地域課題の整理を進めた。

(会長) 本日の結果につきましては、事務局で整理して後日配付をお願いします。

(事務局) 次回の会議は、後期基本計画の体系に沿った具体的な計画についてお示ししたいと考えております。後日委員の皆さまの日程調整をさせていただきます。事務局からは以上です。

6 閉会（20：00 終了）